

○私は大得意で何にも知らぬ村人の爲めに展覽會を開いた、
是は生れて以來單獨の展覽會として有名なものならん○紀念
の爲に繪を惠んでやつたら大切に持つて歸つた人もあつた○
私は斯な山奥に名を知られたのを非常に嬉しいと思つた○水
彩畫の研究を始めてから日が淺いけれど兎に角描くことの出
来るやうになつたのについては春鳥會、つづいて大下先生に
御禮を申さればならぬ○峠屋の村長さんは中學世界の口繪で
知つたのか大下先生の名を知つてゐた。

水彩畫史及所感

東城町

田 吾 作

私が水彩畫の趣味を知たのは四五年前で、其端緒は七年前學校
で一年許り兒戯に均しいことを習て水彩畫なるものを知た、其
の後數年更に顧みなかつたが其後友人の筆になれるものを見て
畫の趣味あることを知り一度畫筆を手にとると繪具及用品を調
へ試み而て其色彩の容易にあらざるに於て失望した、其後は臨
本寫生に、不完全の野外寫生に數十葉を試み、如何にして友人
は斯くの如き色彩を得しかと數十回の殆ど失敗に終れると其色
調の輕易に得られざるを知るに共に余の水彩熱も已に挫折せん
とせり、是の際一つの興奮劑を得た、即ち一葉の繪葉書は旅行
先の親友T H 君より投ぜられたるもの、其畫のT H 君の筆にな
れるを知り、其色彩の高尙なるに驚き、斷念か中止の點は飜て
奮發心となり、直に水彩畫の葉を求め默讀數回大に得るところ
あり、又模寫に寫生に數十葉を筆にせり、然れども其三四を除

くの外は全く見るべきものなし依て心に思へりこれ必ず使用品
の悪しきためならんと、而して自己の手腕如何には充分思及さ
りき、この思は暫時にして足れり即ち用品は不足なく整ひた
り、直に試み見事失敗せり、斯くしてこそ眞く畫の趣味も知る
を得べく自然の大景にも亦親むを得べく、畫趣なき人の想像だ
に能はざる眞味も亦解するに至るべし、然れども、もと水彩畫
専門を以て世に立たん決心もなく、其高尙なる、其究りなき自
然の彩色に師事し、以て心身の高潔を得んがためなり、故に其
進歩の如きもまことに微々たるをまぬがれず、然れども、健忍
不拔以て進まば半歩の遅々尙ほよく彼岸に達するのときあら
ん、たとへ其進歩は遅々たるも其精神的有形無形の効果に至り
ては枚擧するに遑あらず、まことに大下畫伯の言はれしごとく
直覺的には心神の高潔健康の増進等其無形の効果に至ては頗る
大なるならん、是れ田吾作と共に實地、諸君の認識せられしこ
とならんと信ず、されど我作品に至ては依然として兒戯の域を
脱せず自ら苦笑しつゝあり。

我が寫生

佐藤 秋 湖

△「みづゑ」を購讀し初めたのは去年の一月からで、之れからは
早く寫生の人となりたいたいと云ふ念が絶えませんでした、尤も其
の以前にも不正確な鉛筆寫生をやつて居りましたが、尙ほ黑繪
の素養が必要とのお話から七八月迄繼續して居りましたが、然し
遂に堪え切れなくなつて半ば手製に半ば買立と云ふ不完全な道